

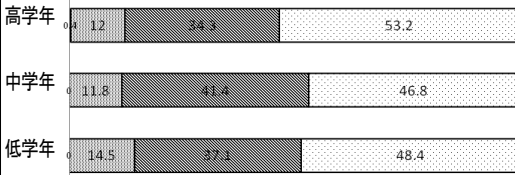


からすの足あと

第 29 号
平成 22 年
3 月 2 日発行

ゲームの使用頻度

■ 全くしない □ あまりしない ▨ ときどきする □ よくする



ゲームやインターネットばかりに夢中になる子ども。何かのストレスを抱えている可能性が高いという調査結果がでました。どうすれば…

ゲームづきづき



香川県教育セン

ターが「ゲーム・インターネット依存とその克服」という研究結果を発表しています。県下の一〇五一名を対象に行ったこの調査によると、小学校高学年の五十三％の児童が「よくする」と答え(エグザセ)、また、休日には十八％の高学年児童が四時間以上使用すると答えています。

疲れた様子や成績低下は

依存状態のSOS

疲れ・成績低下・反抗的な態度等は、ゲームやネット依存の兆候でもありま
す。また、子どもが何らか

取り上げるのや罰は逆効果

使用場面が家庭であるだ

けに、保護者の対応は重要です。子どもがゲーム等に夢中であるときに、突然ゲーム機を取り上げたり、すぐに注意を聞かせようとしていたりする等の強引な態度は、子どもが注意を無視するようになり、逆に依存状況を促進してしまう傾向があるということです。

の問題でストレスを抱えているサインとも言え、学校と家庭で連絡を取り合い情報交換する等、対応をスタートさせるチャンスです。

魅力を理解し

一緒にルールづくりを

家庭では、ゲーム等の魅力について、まず保護者が理解しようとする姿勢をみせることが大切だということとです。その上で、子どもと一緒にルールづくりをすることが効果的とされています。



詳細は香川県教育センターHPにある「調査研究等成果報告」をご覧ください。